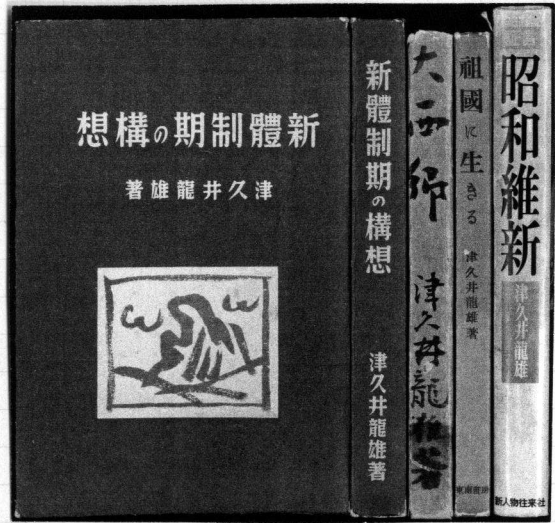


津久井龍雄 政治評論家。明治二十四年一月四日栃木縣大田原生れ、
 平成元年九月九日没（七〇一六）。早稲田大學中退後高富素之の門に
 入り、石川準一郎、矢部周等と高富の大衆社を助勢。大正十五年赤尾
 敏と建國會を、昭和五年愛國勤勞黨を、更に八年赤松克麿、倉田百三
 等と國民協會を結成。内部團體として青年日本同盟を興し會長、機關
 誌『國民運動』、『青年日本新聞』を發刊するなど、國家社會主義運
 動を實踐。十一年『ちままと新聞』を筆となり、爾來評論活動を主とす
 る。その後讀賣新聞社論説客員、大日本言論報國會常務理事等事を務め、
 戦後八公赦免処分を受く。解除後、二十八年國論社を設け、個人雜誌
 『國論』、『我流』を發刊。

譯書に、プラトーン著『理想國』（大正十四年十一月八日新潮社）『社
 會新學說大系』、うち昭和十一年八月七日「新潮文庫」、シヨン・
 スチユワート・ミル著『宗教と功利主義』（昭和十二年十二月十五日新
 潮社）『社會新學說大系』等。著書に『コントの實證哲學』（大正十
 五年四月二十五日專業之日本社出版部）『社會・經濟思想叢書』、『課
 題を衝く』（昭和十二年九月十八日
 作品社）『作品文庫』、『新體制期
 の構想』（昭和十五年十一月七日東
 洋經濟新報社）、『文化と政治』（昭
 和十六年八月十九日桃蹊書房）、『日
 本國家主義運動
 史論』（昭和十
 七年五月二十日



本國家主義運動
 史論』（昭和十
 七年五月二十日



中央公論社）、『總^合文化講座 大東亞政治の構想』（他五名合著・日本評論家協會編、昭和十七年六月、二十日日本出版社）、『日支國交史論』（昭和十八年六月、二十日昭和刊行會「日本政治研究」）、『思想の根基』（他七名合著・大日本言論報國會編、昭和十八年九月一日同誌通信社「日本思想の戰叢書」）、『大西郷』（昭和十八年九月二十日昭和刊行會）、『我國政治の提綱』（昭和二十一年三月二十五日同社「明日への叢書」）、『右翼』（昭和二十七年五月十日昭和書房）、『祖國の生きたる』（昭和二十七年八月二十日東南書房「現代人の教養」）、『私の昭和史』（昭和二十二年四月二十日東京創元社）、『証言の陣新』（昭和四十八年九月二十日新人物往來社）等。